

要請事項（厚生労働省－６）関連資料

2023/6/6 修正版（赤色部分）

文責：ヒバク反対キャンペーン 建部 暉

要請事項骨子

福島第一原発緊急時作業従事者のみならず全ての原発被ばく労働者に「労災補償制度の説明」を徹底すること。

回答 ４ 今後とも放射線被ばくによる疾病に係る労災補償制度の周知に努めてまいります。

緊急時作業に従事していない多数の労働者は労災補償制度について知らされておらず、至急に直接個人に知らせる必要がある。

原発推進で多数の被ばく労働者を生み出したことに対してとるべき国の責任の１つではないのか。

資料１ 放射線管理手帳の交付実績

1991年3月末	放射線管理手帳交付者累計	20万6千人
2011年3月末	同	40万3千人
2022年3月末	同	65万人（うち、約20万人は除染作業従事者と推定される）

資料２ 原発被ばく労働者の被ばく線量分布

原発等施設労働者の放射線疫学調査で調査対象者の被ばく線量分布が示されている。

第Ⅳ～第Ⅴ期調査の対象は、**1999年3月末現在「放射線影響協会放射線従事者中央登録センター」に登録されていた約34万3千人**（放射線管理手帳交付の登録累積）のうち、実際に被ばく労働に従事し、死亡調査が可能な日本国籍を有する約27万7千人です。そのうち**男性労働者274,560人の被ばく線量分布が公表されている。**

調査	累積線量区分	<5 mSv	5mSv－	10mSv－	20mSv－	50mSv－	100mSv－
第Ⅳ期	2003年3月末人数	217,572		21,957	20,644	9,062	5,325
第Ⅴ期	2013年3月末人数	190,773	22,468	22,399	21,662	10,231	7,027

（注）1999年4月以降の被ばく労働者の増加、2013年4月以降の被ばくを考慮すると、**現状では、例えば100mSv以上被ばくは1万人近いと推定される。**

資料３ 東電福島第一原発事故以降の労災申請で支給決定となった8人の被ばく線量のうちわけ（イチエフは、緊急時作業以外も含む事故後の福島第一原発を表す。）

No.	支給決定（ 厚労省発表日 又は労基署決定日 ）	疾病	イチエフの被ばく（mSv）	その他の被ばく（mSv）	合計被ばく（mSv）
1	2015. 10. 20	白血病	15. 7	4. 1	19. 8
2	2016. 08. 19	白血病	54. 4	0	54. 4
3	2016. 12. 16	甲状腺がん	139. 12	10. 48	149. 6
4	2017. 12. 13	白血病	約91以上	従事し線量不明	約99
5	2018. 08. 31	肺がん	74	121	195
6	2018. 12. 10	甲状腺がん	100	8	108
7	2021. 09. 08	咽頭がん	85	114	199
8	2021. 09. 08	咽頭がん	44	342	386
9	2022. 12. 23	真性赤血球増加症	60	79	139
10	2022. 12. 23	白血病	31	47	78
11	2023. 03. 10	白血病	95	29	124

5番、7番、8番の人は、イチエフの被ばくも相当あるが、合計線量が高く労災認定された。